



「ディスカバー農山漁村の宝」 フォローアップ調査



令和4年3月

農林水産省農村振興局都市農村交流課

第3回選定地区の主な活動状況

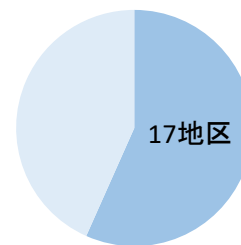
「ディスカバー農山漁村の宝」として平成28年度(第3回選定)に選定された30地区に対して、選定直後の状況と選定から5年後の活動状況について調査を実施。

選定後の活動継続状況

- 第3回選定の30地区について調査したところ、選定から5年後も全ての地区で継続して活動を展開しており、このうち17地区において、売上・利用者数の増加や事業拡大など、取組の進展が見られた。

区分	地区数	割合
a. 活動継続中	29	96.7%
b. 別組織で継続	1	3.3%
c. 活動終了	0	0.0%

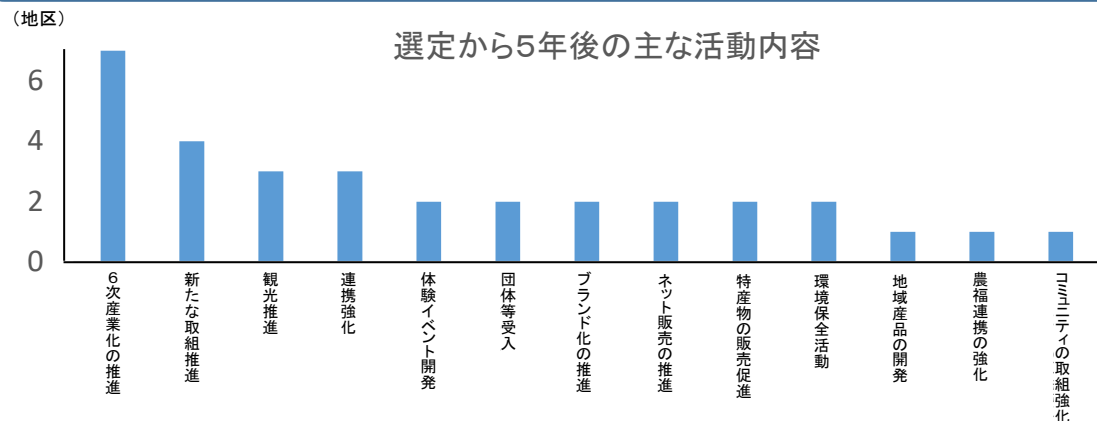
活動の継続実態の有無



取組の展開状況

選定から5年後の活動内容

- ①地域産品の開発や販売促進等の6次産業化の取組、②新たな取組推進、③体験イベント開発や観光推進等の交流人口拡大の取組が積極的に行われている。
○ このほか、コロナに対応するため、ECの推進や専用の宿泊施設の整備等の工夫も見られた。



交流人口拡大の取組



地域産品開発・6次産業化の取組

第3回選定(平成28年度)地区一覧

ブロック	都道府県	市町村	団体名	
近畿	兵庫県	養父市	畑特産物生産出荷組合	★
	奈良県	山添村	山添村波多野地区活性化協議会「かすがーでん」	
	和歌山県	有田川町	株式会社ふみこ農園	
	和歌山県	紀の川市	紀の里農業協同組合	★
中国	岡山県	美作市	特定非営利活動法人英田上山棚田団	★
	広島県	安芸太田町	津浪振興会	★
	山口県	山口市	山口とくち和紙振興会結の香	
四国	徳島県	那賀町	木頭ゆずクラスター協議会	
	高知県	南国市	C L T 建築推進協議会	
	高知県	越知町	株式会社 岡林農園	
九州	福岡県	久留米市	城島町土地改良区	
	大分県	宇佐市	N P O 法人安心院町グリーンツーリズム研究会	★
	宮崎県	高千穂町	高千穂ムラたび協議会	★
	沖縄県	伊江村	農業生産法人株式会社いえじま家族	★

ブロック	都道府県	市町村	団体名	
北海道	北海道	別海町	株式会社べつかい乳業興社	★
	北海道	芽室町	株式会社九神ファームめむろ	★
	北海道	鶴居村	特定非営利活動法人美しい村・鶴居村観光協会	
東北	青森県	弘前市	在来津軽「清水森ナンバ」ブランド確立研究会	★
	秋田県	仙北市	仙北市農山村体験推進協議会	★
	山形県	川西町	東沢地区協働のまちづくり推進会議	
関東	群馬県	渋川市	農業生産法人株式会社赤城深山ファーム	★
	神奈川県	伊勢原市	株式会社めぐり	
	長野県	飯山市	一般社団法人信州いいやま観光局	★
北陸	新潟県	十日町市	大地の芸術祭実行委員会	
	新潟県	糸魚川市	シーフードカンパニー能水商店	
	富山県	魚津市	魚津漁業協同組合	
	福井県	越前市	ロハス越前	★
東海	岐阜県	恵那市	奥矢作移住定住促進協議会	★
	愛知県	豊根村	茶臼の里合同会社	
	三重県	鳥羽市	鳥羽マルシェ有限責任事業組合	★

※ ★はP.5～P.20の個別事例掲載地区

選定地区の主な活動状況〔総括表〕

○選定による知名度の向上や販路開拓等により、選定後も売上を増加させている地区が多く見られた。

○新たな連携先の確保や新商品の開発等により事業拡大した地区、移住者数を増加させた地区等、選定後も各地区の取組が進展。

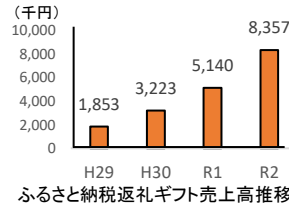
株式会社べつかい乳業興社
(北海道別海町)

▶ P.5

グランプリ

売上の増加

選定後の平成29年度下期から本格的にふるさと納税の返礼ギフトの取組を開始し、売上は順調に増加。



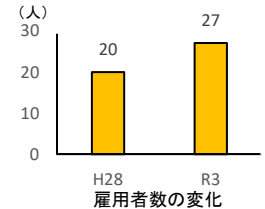
株式会社九神ファームめむろ
(北海道芽室町)

▶ P.6

アクティブ賞

雇用者数の増加

障がいのある従業員の能力が向上し、地域企業へ10名がステップアップ就労するとともに、自社の雇用も選定時の20人から27人に増加。

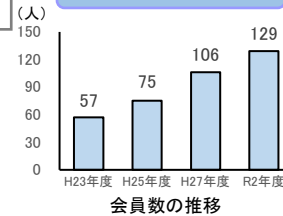


在来津軽「清水森ナンバ」ブランド確立研究会
(青森県弘前市)

▶ P.7

会員数の増加

弘前大学の協力の下、新たに安定的な種子共有・育苗に着手するとともに、会員数は106人(H27年度)から129人(R2年度)に増加。



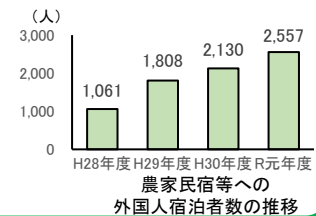
仙北市農山村体験推進協議会
(秋田県仙北市)

▶ P.8

フレンドシップ賞

利用者数の増加

泊食分離型やアルベルゴ・ディフーズ(分散型ホテル)の考え方による地域づくりを展開し、外国人宿泊者数は令和元年度に選定年の2倍強にまで増加。



農業生産法人株式会社赤城深山ファーム
(群馬県渋川市)

▶ P.9

事業拡大

一般消費者の認知度が向上したことから、新たにそばを使用したパンケーキミックス粉を一般向けに開発・販売。

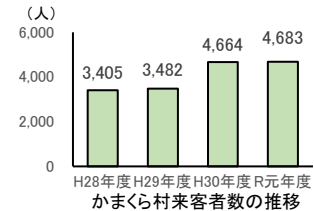


一般社団法人信州いいやま観光局
(長野県飯山市)

▶ P.10

利用者数の増加

選定されたことによりメディアなどで取り上げられる機会が増加し、かまくら村の来客数は選定時の3,405人から4,683人(R元年度)に増加。



ロハス越前
(福井県越前市)

▶ P.11

事業拡大

選定後に、米粉のパンや菓子、料理の研究開発を行い、米粉パンやピザ焼き等を行う体験活動や、米粉ピザを提供する農家レストランの営業を開始。

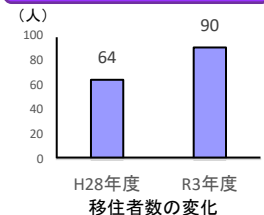


奥矢作移住定住促進協議会
(岐阜県恵那市)

▶ P.12

移住者数の増加

選定後に当地域への移住者数は26名増加し、平成23年の活動開始からの総移住者数は90名にまで増加。

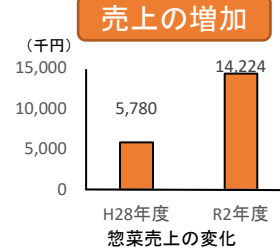


選定地区の主な活動状況〔総括表〕

鳥羽マルシェ有限責任事業組合
(三重県鳥羽市)

P.13

レストランは新型コロナウイルス対策で
ビュッフェ形式から定食・御膳式に変更
して営業を継続するとともに、惣菜部門
を強化することで、売上が増加。



畑特産物生産出荷組合
(兵庫県養父市)

P.14

平成30年に開発を始めた「朝倉粉山椒」
は、各方面からの引き合いが増え、令
和2年には約400kg、令和3年には約
500kgと順調に生産量を拡大。

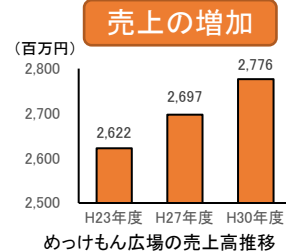
事業拡大



紀の里農業協同組合
(和歌山県紀の川市)

P.15

農業体験で都市と農村・人と人をつなぐ
をキャッチフレーズに取組を展開し、
直売所(めっけもん広場)の売上は順調
に増加。

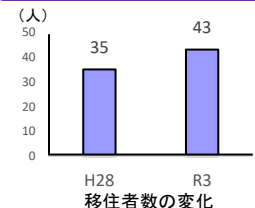


特定非営利活動法人英田上山棚田団
(岡山県美作市)

P.16

選定後も棚田の維持・再生活動を
継続し、伝統継承活動等に取り組む
ことにより、当地域への移住者数は
43名まで増加。

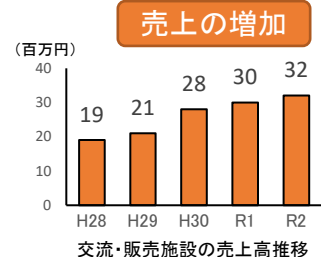
移住者数の増加



津浪振興会
(広島県安芸太田町)

P.17

駅跡地を交流・販売施設として整備し
地域の活性化に寄与しており、売上は
1,900万円(H28)から3,200万円(R2)に
増加。

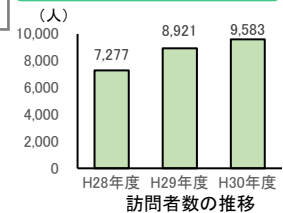


NPO法人安心院町グリーンツーリズム研究会
(大分県宇佐市)

P.18

修学旅行のほか、一般旅行者に農泊
体験等を提供し、当研究会への訪問者数
は7,277人(H28年度)から9,583人(H30
年度)に増加。

利用者数の増加

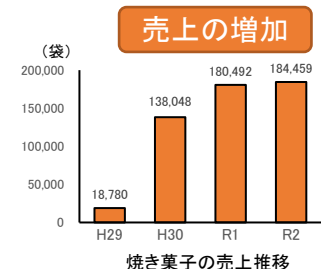


高千穂ムラたび協議会
(宮崎県高千穂町)

P.19

プロデュース賞

コロナに対応した取組として、ECを中心と
した加工品の販売を行っており、焼き菓
子の売上は順調に増加。



農業生産法人株式会社いえじま家族
(沖縄県伊江村)

P.20

小麦生産・加工に加えて、県内企業・教育
機関と連携してビール粕を堆肥として
活用した伊江島産大麦から新たなビール
を生み出す循環型の大麦栽培を実施。

事業拡大



ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



株式会社べつかい乳業興社【北海道別海町】
べつかいちょう

選定年: H28年
(グランプリ受賞)

概要

- 牛乳をはじめ、バター、チーズ等の乳製品を製造。製品に町名「べつかい」を使用し、べつかいブランドを確立。「ミルク王国べつかい」の味を提供。
- 大手コンビニチェーンや道内の和洋菓子店等と連携して新商品を製造・販売し、これらを通じて別海町をPR。

選定年(H28年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 別海ブランドのイメージ向上、食文化創造の拠点づくりの場として、第三セクターにより運営。
- 乳製品加工研修施設による乳製品づくりの研修を通じて、別海町の関連産業の発展・向上に寄与。
- 平成25年からベトナムにアイスクリームを輸出。



製造された乳製品



乳製品づくり研修



海外でのアイスクリーム販売

選定直後の状況

- 北海道新聞3回、釧路新聞2回、十勝毎日新聞1回掲載。
- 選定後に、沖縄及び北方対策担当大臣1回、国土交通副大臣2回視察。
- 日本テレビZIPにて商品紹介。

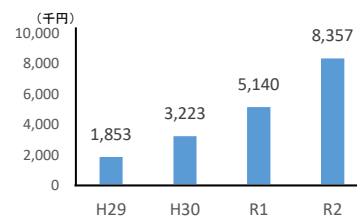


日本テレビZIPにて商品紹介

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 主原料の生乳は100%別海町産を使用し、製品の主役は生乳であるコンセプトを維持。
- 平成29年度下期から本格的に取組を始めた、ふるさと納税の返礼ギフトが順調に売上を伸ばしている。
- 社員35名のうち、別海町民は31名であり、地元企業として雇用に貢献。



ふるさと納税返礼ギフト売上高推移



洋菓子店とのコラボ商品

今後の展開方向

- 今後は、ふるさと納税返礼ギフトの品目を増やす予定。
- 地元パティシエと連携して、牛乳だけでなく、バターやチーズを使用したスイーツ開発販売を目指す。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



きゅうじん きゅうじん
株式会社九神ファームめむろ【北海道芽室町】

めむろちょう

選定年: H28年
(アクティブ賞受賞)

概要

- 農業生産を核に、惣菜用品の製造、レストラン事業等の6次産業化を推進。
- 惣菜は、西日本を中心とした惣菜店舗やレストランで提供。
- 農業生産、加工、調理、接客、販売まで食に関する一連の流れに障害者や高齢者が参加。

選定年(H28年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 障がいのある従業員が9人(平成25年度)から20人(平成27年度)と約2倍に増加。
- 月当たりの生産量が約5トン(平成25年度)から約8トン(平成27年度)に増加。
- 障がいのある従業員に対して、月10万円を超える給与を支払い、社会保険、社員旅行など充実した福利厚生を提供。



自社農園にて収穫後の様子

選定直後の状況

- 新聞、雑誌等に8回掲載。
- 選定後に視察団体が20回訪問。
- 選定実績を活用した販売促進を実施。



ポテトサラダの販売促進

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 選定後に全国の自治体及び企業からのアプローチを受けて、三重県や長野県等での活動がスタート。
- 障がいのある従業員の能力が向上し、10名が地域企業にステップアップ就労を達成。また、九神ファームめむろでの雇用も20人から27人へと増加。



三重県での横展開
(シグマファームとういん)



長野県での横展開
(フジすまいるファーム飯山)

今後の展開方向

- 現在の事業内容以外にも、観光事業等の新たな事業を実施するとともに、更なる横展開を目指す。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



在来津軽「清水森ナンバ」ブランド確立研究会

【青森県弘前市】

選定年: H28年

概要

- 「清水森ナンバ(トウガラシ)」の生産農家のみならず、原材料として用いて商品開発を行う農業高校、加工業者や、料理を提供する飲食店が注目され、地域の中で好循環を生み出す。
- 令和2年12月に「清水森ナンバ」が地理的表示(GI)保護制度に登録されたことを受け、今後、海外展開を狙う。

選定年(H28年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 生産量が激減していた地域伝統食材の清水森ナンバを復活させるべく平成16年に産学官連携で産地復活を目指す「在来津軽「清水森ナンバ」ブランド確立研究会」が発足。
- 生産された清水森ナンバを活用した商品開発のほか、平成24年からは地域の小・中・高校で植付け体験などを実施。



津軽の在来野菜「清水森ナンバ」

選定直後の状況

- 選定された平成28年度以降3年間で新聞記事として29回掲載。
- 平成28～30年度の間、計8回テレビで放送。
- 日本航空㈱の会員向け情報誌「AGORA」やJR東日本発行の「大人の休日倶楽部」に清水森ナンバを使用した商品が掲載。



日本航空㈱の会員向け情報誌に商品が掲載

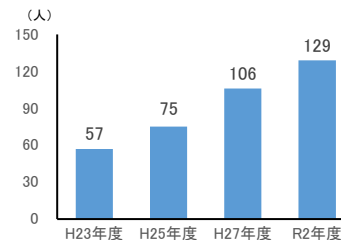
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- これまでは、弘前大学の採取圃場で栽培した種子を種苗会社で育苗後、生産者に配付、栽培・管理してきたが、弘前大学の協力の下、新たに安定的な種子供給・育苗に着手。
- 「清水森ナンバ」の更なる知名度向上や他者との差別化を図るため、平成31年4月に「清水森ナンバ」を農林水産省の「地理的表示(GI)保護制度」の対象に申請し、令和2年12月23日に登録(登録番号第105号)。



特定農林水産物等登録証



研究会会員数(※)の増加
※栽培会員、加工会員の合計

今後の展開方向

- 今後は、登録した「地理的表示(GI)保護制度」を活用し、他者との差別化を図るとともに、開発された商品を日本国内だけではなく、海外展開を図っていく予定。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



せんぼくし

仙北市農山村体験推進協議会

【秋田県仙北市】

選定年: H28年
(フレンドシップ賞受賞)

概要

- 国家戦略特区を活用して会員が国内旅行業務取扱管理者資格を取得、平成30年1月に「地域限定旅行業」に新規登録し、旅行者としてワンストップサービスの体制を構築。
- 国内外の個人旅行観光客への対応と所得向上を目指し、情報発信や情報収集について、独自の事業展開を実施。行政に頼ることなく、会員それぞれが積極的に実施する事業を支援。

選定年(H28年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 平成20年度に仙北市農山村体験推進協議会を設立。市内グリーンツーリズム団体における活動を一本化。
- 平成24年度から海外青年研修団、海外からの教育旅行の受入開始。
- 平成28年に「オーライ！ニッポン大賞」を受賞。



オーライ！ニッポン大賞受賞

選定直後の状況

- 選定以降の3年間で、新聞記事に15回掲載、テレビに9回放送。
- 選定後に視察団体が20回訪問。
- 海外からの教育旅行及び国際交流団体は平成28年度9団体302人、平成29年度14団体416人、平成30年度12団体303人の受入。



ファムトリップ
(海外旅行会社の視察旅行)

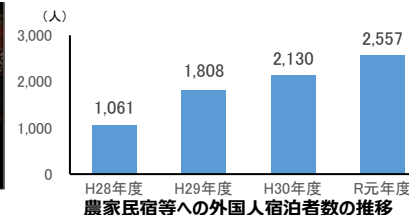
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 国家戦略特区を活用し、会員が国内旅行業務取扱管理者資格を取得、地域限定旅行業に新規登録。
- 一般社団法人として登記し、行政に頼らない運営体制にシフト。
- 農山漁村振興交付金を活用した海外プロモーション。
- 多様な業種と連携して、泊食分離型やアルベルゴ・ディフーズ(分散型ホテル)の考え方に基づく地域づくりを展開。



タイ全国放送TV番組撮影



今後の展開方向

- 今後は、農山漁村振興交付金で導入した宿泊等予約に関する業務管理システム、キャッシュレス決済システムを活用して、諸外国から更なる旅行客の受入れを目指す。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



あかぎみやま
農業生産法人株式会社赤城深山ファーム【群馬県渋川市】

選定年:H28年

概要

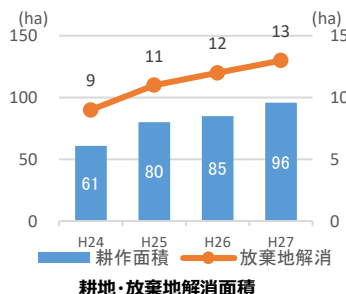
- 耕作放棄地を積極的に借り受けて、そばを栽培。
- 東京のそば老舗店のニーズに即した製粉調整、製造工程管理を徹底。
- 従業員の半分以上が女性であり、加工や販売だけでなく管理職においても女性が活躍。

選定年(H28年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 平成23年から27年までに耕作放棄地を13ha解消。耕作面積も42haから96haと約2倍に増加。
- 5年間の販売額は約3千万円から約8千万円と約3倍に増加。
- 従業員の中には、介護育児と仕事を両立する中で、JA青年部に加入する女性がいるなど地域農業の場でも活躍。

- 女性の雇用人数
【H25年度】 【H30年度】
1人 → 8人



赤城深山そばの栽培

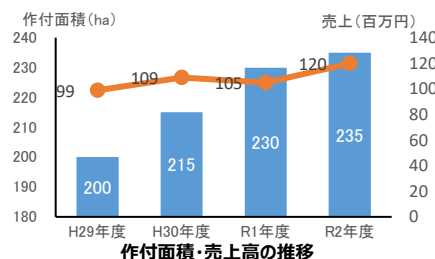
選定直後の状況

- 選定されたことで、地域住民からの信頼を得ることにつながり、農地の賃借や売買が円滑化。

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 「優良な農地を次世代につなぐ」を企業理念に、地域の耕作放棄地解消を続けて作付面積を拡大し、売上も向上。
- 農薬や化学肥料に頼らずに栽培される「そば」の品質は、取引先等からの信頼が厚く、主産地である北海道産の相場が半額以下まで下落した際にも、変わらない価格で販売。
- 一般消費者の認知度が向上したため、そばという専門性の高い食材を使用したパンケーキミックス粉を一般向けに開発・販売。



新商品のパンケーキミックス

今後の展開方向

- 地域では主産物であるコンニャク相場下落により、空き農地の増加が顕著になっており、これらの農地が耕作放棄地とならないように借り受けるなどして、作付面積の拡大を図る予定。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)

一般社団法人信州いいやま観光局 【長野県飯山市】

選定年:H28年



概要

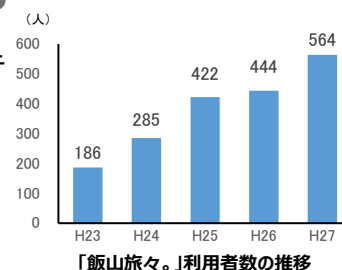
- 50ほどの旅行プランをホームページで案内し、申込みから決済まで行うことができるシステムを構築。
- 国内外のインバウンド商談会へ出展、宿向けの英語教室など外国人受入体制を整備。
- 女性ならではのアイデア等で食の体験商品の開発、チラシ・ポスターの制作。

選定年(H28年)前後の状況

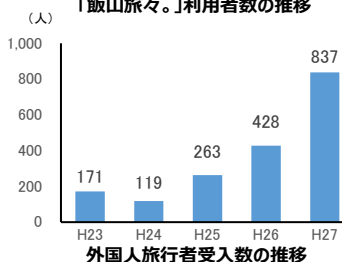
選定時までの活動状況

- 官民連携の観光プラットフォームとして、平成22年に設立以降、着地型旅行商品の「飯山旅々。」の提供、インバウンドの受入強化等に取り組む。

- 「飯山旅々。」の利用者は、186人(平成23年度)から564人(平成27年度)と約3倍に増加。



- 外国人旅行者の受入数は、171人(平成23年度)から837人(平成27年度)と約5倍に増加。



- 観光協会や宿泊施設等との連携により地域全体の誘客数が増加、多様な旅行プランは通年の収益確保に貢献。

選定直後の状況

- 選定されたことで、行政等からの評価が上がり、口コミやメディアで取り上げられる機会も増え、来客数は年々増加。



夜のかまくら

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 選定されたことにより、メディアなどで取り上げられる機会が増加し、冬に開催する「レストランかまくら村」への来客が37%増加。特に、インバウンド利用者が増加し、飯山市の冬の一大コンテンツとなっている。

- かまくらを現地の方と一緒につくるプランなど、「飯山旅々。」のプランを充実させ、利用者、売上ともに増加。

【H28年度】

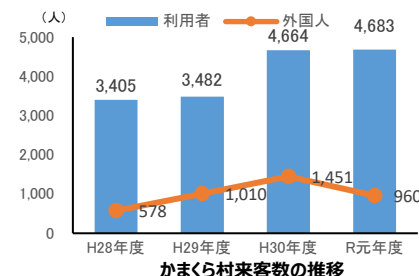
776万円

【R元年度】

1,098万円(約1.4倍)



レストランかまくら村



今後の展開方向

- 周辺9市町が連携して取り組む広域観光「信越自然郷」の事務局として、サイクリングツーリズムの推進やスキー場との連携強化を図り、インバウンド向けのブランド力の更なる向上を目指す。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



ロハス越前 【福井県越前市】

選定年:H28年

概要

- 農家民宿等に宿泊し、農業や自然環境体験、伝統産業体験を行うグリーン・ツーリズムを展開。
- 旅行会社とタイアップした田舎暮らしツアーの受入れ、東京・中京・関西方面から子どもの体験ツアーの受入れ。

選定年(H28年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 体験ツアーとして、まずは東京から20名の子どもの受入れを10数年間実施し、その後、受入範囲を広げ、中京・関西方面へと拡大。
- 教育旅行の誘致に取り組み、県観光連盟の紹介で、台湾の高校生による農家民宿への受入れを実現。
- JICE(日本国際協力センター)の台湾大学生の招へい事業に加わり、ホームステイを実施。
- 子どもの体験ツアーが144人(平成23年度)から386人(平成27年度)と3倍に増加。



地域の伝統「和紙の紙漉き」体験



釜焼きご飯体験



海外からの教育旅行の受入れ

選定直後の状況

- 選定後、市長を訪問した記事が福井新聞に掲載。

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 選定後に農産加工分野への取組として、米粉の加工研究に着手し、米粉のパンや菓子、料理の研究開発を開始。
- 薪窯のピザ釜を導入し、米粉パンやピザ焼き等を行う体験をスタート。さらに、石窯で焼く米粉ピザを新商品として提供する農家レストラン「ロハスカふえ」を営業。
- グリーン・ツーリズム団体のモデルとして、全国各地における研修会での講演やパネラーとして参加。また、行政機関や関係団体の視察先として来訪者に対応。



石窯でのピザ焼き体験



米粉ピザ、米粉パン

今後の展開方向

- 今後は、農家レストランを中核として農泊の取組、教育旅行の誘致を推進する予定。
- また、地場産農産物の活用や地域の魅力発信、雇用に結び付く持続可能なビジネスモデル体制の構築を目指す。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)

おくやはぎ

奥矢作移住定住促進協議会

えなし

【岐阜県恵那市】

選定年:H28年



概要

- 平成23年からの移住定住推進活動「古民家リフォーム塾」を継続して実施。
- 移住者を構成員として設立した「里山づくりの会」により、最大の地域課題である山林再生活動を推進。

選定年(H28年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 平成23年から始まった「古民家リフォーム塾」を年間10回開催。本活動により64名が当地域へ移住。
- 平成26年から移住者を構成員に設立した「串原・里山づくりの会」による山林再生活動を実施。同時に、林業の担い手を育成。



古民家リフォーム塾の様子



里山づくり活動「作業安全講習会」の様子

選定直後の状況

- 選定後の2年間で11団体215名の視察を受入れ。
- 「中日新聞」、「岐阜新聞」に選定内容が掲載。

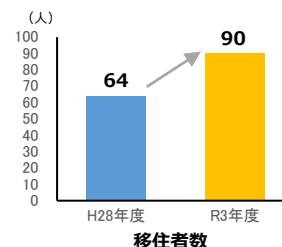


視察対応の様子

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 選定後に移住者数は26名増え、活動開始以来の総移住者数は90名まで増加。
- 「里山づくりの会」による山林再生面積は、活動当初の24haから90haへと拡大。
- 平成29年度からは農泊にも取り組み、2施設を拠点として11種類の体験プログラムを提供。



奥矢作湖でのカヌー体験の様子

今後の展開方向

- 今後は、古民家リフォーム塾を継続的に実施するとともに、山林再生面積の拡大や構成員の施業技術の更なる向上を目指す。また、農泊を推進することで交流人口増へとつなげる。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)

鳥羽マルシェ有限責任事業組合

とばし
【三重県鳥羽市】

選定年:H28年



概要

- 地元の農協と漁協が共同出資した組織を立ち上げ、地元農水産物を販売するマルシェ、レストラン・惣菜事業、6次産業化を展開。
- 自家消費が中心であった生産者の所得向上、地域の「食」の付加価値向上に貢献。

選定年(H28年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 農水産物の価格低迷や後継者不足等の課題解決に向け、地元の農協と漁協が共同出資して平成26年に新組織を設立。
- 農漁家の所得向上を目指した農水産物の直売事業、地域で継承されてきた「食の知恵」を提案するレストラン・惣菜事業を展開。
- 地元農水産物を活用したジャムや釜ゆで加工品など、6次産業化の取組により生産者を支援。



環境に配慮し、旬の食材を使った
レストランメニュー



マルシェでの新鮮な農水産物販売



6次産業化で取り組む
ジャムづくり

選定直後の状況

- 選定後に、市長に報告し、地元紙に掲載。
- 平成29年は行政関係の視察を6件受入れ。
- 自社案内パンフレット表紙にて「ディスカバー農山漁村の宝」として選定された旨PR。

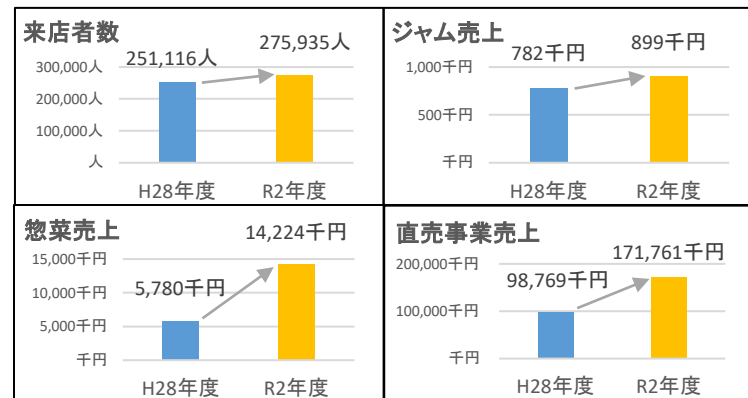


市長へ選定を報告

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- レストランは新型コロナウイルス対策のため、令和2年6月からビュッフェ形式から定食・御膳式に変更して営業を継続。
- ジャムの販売については、鳥羽市の企画セット商品への組込や予約販売先との提携等により、売上の底上げ。



今後の展開方向

- 今後は、出荷者自身による野菜のラッピングとバーコードシール貼付位置の統一でマルシェ運営の効率化を進める。
- また、既登録者、未登録者に関わらず、説明会を開催するなどにより、新規登録者獲得を目指す。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)

はた 畑特産物生産出荷組合 【兵庫県養父市】

選定年:H28年



概要

- 兵庫県養父市八鹿町朝倉が発祥の「朝倉山椒」を使い、大学等と連携した新商品開発や積極的な販売活動を実施。
- 「朝倉山椒」の輸出や遊休農地を活用した栽培のほか、農福連携にも対応するなど多様な取組を実施。

選定年(H28年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 昭和57年に設立された本組合で、空き校舎を活用し集落内で収穫される朝倉山椒を佃煮に加工する取組を開始。



朝倉山椒の収穫作業

- その後、組合員の高齢化等で生産・売上が低下したため、平成22年から「朝倉山椒の6次化による元気な村づくり」の活動を開始。



朝倉山椒をイタリアンソースに加工

- 近隣の大学からの協力を得て、朝倉山椒を使ったイタリアンソース「山椒ジェノベーゼ」と「山椒味噌(赤・白)」を開発し、販売開始。

選定直後の状況

- 兵庫県議会・農政環境常任委員会をはじめ、県内外から多数の視察を受入れ。



- 平成28年、「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー(内閣府後援)」の「自治体が勧めるまちの逸品部門」で、「但馬朝倉さんしょシリーズ」が最優秀賞に選定。



「ふるさと名品オブ・ザ・イヤー」HP

現在の状況及び今後の方向

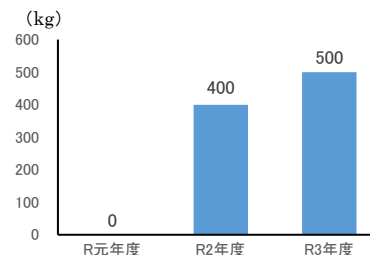
現在の活動状況(5年後)

- 平成30年に開発を始めた「朝倉粉山椒」は、令和元年には売上がゼロであったが、令和2年には400kg、令和3年には、各方面からの引き合いが増え、販路が広がり順調に事業拡大。

- ただし、原材料の山椒の確保が課題で、霜被害により、需要に応じた材料確保が出来ず、納品に支障を来しているといった課題あり。



「朝倉粉山椒」イメージ



「朝倉粉山椒」の概算生産量の推移

今後の展開方向

- 今後は、朝倉山椒商品の売上を更に伸ばすことにより、若い世代の雇用を創出し、集落の農業を守りながら村の活性化につなげる人材を育成していく。

- また、本協議会の活動を通じ、朝倉山椒の生産を他地域に広げ、加工品開発とブランド化を進め、雇用を創出し、若者の定住を促進していく。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



紀の里農業協同組合 【和歌山県紀の川市】

選定年:H28年

概要

- めっけもん広場(大型農産物直売所)及び同広場姉妹店オイナシティを開設し、既存直売所と合わせた交流拠点として大きな成果。
- これらの直売施設を拠点に、一年を通じて楽しめる多彩なプログラムを取り揃えた体験交流事業を導入。

選定年(H28年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 紀の里農業協同組合は、平成4年10月に県下で初めて広域合併した大型JAで、平成20年にも合併を重ねている。
- 平成12年に大型農産物直売所「めっけもん広場」、続いて平成25年には同広場姉妹店「オイナシティ」を開設。
- 平成15年、農産物の魅力や農業の重要性を伝えたいとの思いを強く持つ農業者が集まり、「農業体験部会」を設立。



親子での米作り体験

選定直後の状況

- 農家の販路拡大と所得向上を目指し、インターネットショップ・バーチャルめっけもん広場を開店。
- 選定後の平成29年4月、店舗機能の強化を目的とした精肉・鮮魚コーナーを新設。

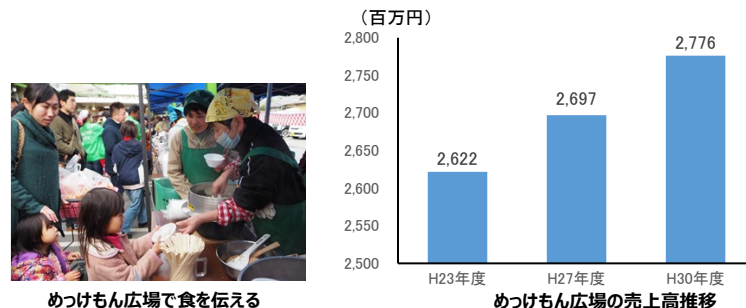


野菜づくり体験

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 平成30年10月、新たに設立された地域DMO「(一社)紀の川フルーツ観光局」と連携し、更なる体験プログラムの拡大のほか、近隣宿泊施設や旅行会社・教育機関等の連携を強化。
- また、紀の里農業協同組合が中核となり、紀の川グリーンツーリズム推進協議会を組織し、農泊の推進に向けて取組中。
- 農業体験部会による体験交流プログラムの参加者は、2,239人(平成23年度)から、2,336人(平成30年度)に増加。



今後の展開方向

- 今後は、直売所を訪れた観光客を市内飲食店等に誘致するなど、市外収入を一層市内へ流通させる取組の推進を目指す。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



特定非営利活動法人英田上山棚田団

あいだうえやま

【岡山県美作市】

みまさかし

選定年:H28年

概要

- 耕作放棄された棚田の再生、景観維持活動を実施。
- 都市と農村との交流による取組、移住の促進。
- 棚田再生活動の中で、神社での盆踊りの復活、伝統文化の継承、コミュニティ再生の取組。

選定年(H28年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 平成19年に任意団体として発足し、平成23年にはNPO法人を設立。
- 一時は9割以上が草木に覆われていた棚田を都市住民等との活動により再生。
- 伝統文化の継承活動として、神社での盆踊りの復活や獅子舞踊りの習得を推進。
- 台湾、フィリピンとの棚田提携。



耕作放棄された棚田



再生した棚田

選定直後の状況

- 美作市役所に選定報告で訪問した記事が新聞等に掲載(新聞報道3回、テレビ放送4回)。
- 毎年20~30件の視察を受入れ。

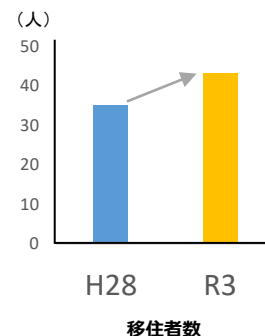


秋祭り獅子舞での集合写真

現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 水田面積は3ha、維持管理面積は15ha。また、移住者は35人(平成28年度)から43人(令和3年度)に増加。
- トヨタモビリティの中山間地における社会実証(H28~H30)に協力し、その後もモビリティを活用。また、草刈りロボット開発を企業と連携して実施。
- 米を使った新商品として米こうじ等調味料の製造に取り組む。
- 棚田再生の延長としてキャンプ場も再生され、利用者数が100人から6,000人へと増加。



今後の展開方向

- 今後も高齢化により管理すべき棚田の面積が拡大していくことが予想されるため、コミュニティ再生、土地管理に注力。
- 今後は、コロナ禍における取組として、田植え風景のオンライン配信により、支援者との交流を実施する予定。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)

つなみ
津浪振興会

あきおおたちょう
【広島県安芸太田町】

選定年:H28年



概要

- JR津浪駅跡地を活用し、地域の野菜や竹チップを原料とした有機堆肥の販売を行う交流施設を整備。
- 地域の伝統芸能である神楽の体験や農家民泊の受入の取組に協力。

選定年(H28年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 駅跡地を食堂、交流・販売施設として整備。また、交流活動としてとんど交流・ホテルの会・春まつり・神楽・そば打ち交流会等を実施。
- 繁茂した竹林を整備し、竹チップを使用した有機堆肥づくりを実施。
- 津浪地域に自生する希少植物「カタクリ」「ホソバナコバイモ」の生息地の保全活動。
- 修学旅行生やインバウンドを対象とした安芸太田町の農家民泊の取組に協力。



駅跡地を活用した交流施設



プロ歌手を招いた交流イベント

選定直後の状況

- 津浪神楽団の活動やカタクリの保全活動が新聞記事に掲載。
- 竹チップを使用した有機堆肥の生産量が増加。
令和2年度:1,000袋(平成28年度の約2倍)



竹チップを使用した有機堆肥

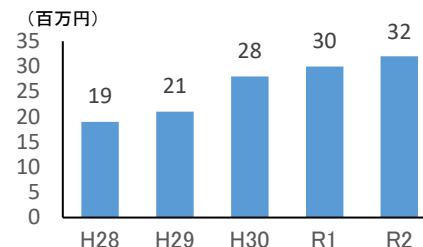
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 販売施設における地元の農産物、竹チップを原料とした有機堆肥、食堂等の販売額、客足が増加。関係人口の増加により地域活性化に貢献。
- 繁茂する竹林の整備により、竹チップを使用した有機堆肥の製造やバッファゾーンの設定による獣害対策を行い、生産意欲の向上や里山の景観改善等に寄与。
- 雑草の刈り取り作業などの希少植物の保全活動を行うことにより、群生面積が拡大し、多くの見学者が訪問。



交流・販売施設「ぶらっとホームつなみ」



交流・販売施設の売上高推移

今後の展開方向

- 農地の保全活動としてビオトープの整備等を実施する予定。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



あじむまち
NPO法人安心院町グリーンツーリズム研究会【大分県宇佐市】

選定年:H28年

概要

- 全国で初めて組織的に農村民泊に取り組んだ「グリーンツーリズム発祥の地」。
- 農泊家庭の自慢の地産地消料理を120品以上集めた食のイベント「スローフード感謝祭」や川歩きイベント「リバーサイドウォーク」など様々なイベントを開催。

選定年(H28年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 平成8年に8軒だった民泊家庭は60軒に増え、教育旅行や視察研修、一般客等、年間延べ約1万人が訪問。また、海外からの農泊客も約1千人(平成23年度)から約2千人(平成27年度)と約2倍に増加。



教育旅行における中学生の田植体験

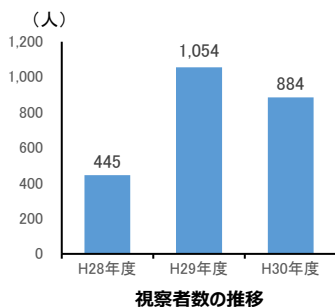
- グリーンツーリズムの本場であるドイツを中心とした欧州の先進的な農村の姿を学ぶ「グリーンツーリズム欧州研修」や、農泊実践者向けの研修会「グリーンツーリズム実践大学」を実施。



海外企業の農泊体験受入

選定直後の状況

- 選定後に視察団体の訪問が大幅に増加。韓国から農泊関係者が視察に訪れるなど、海外からも注目。



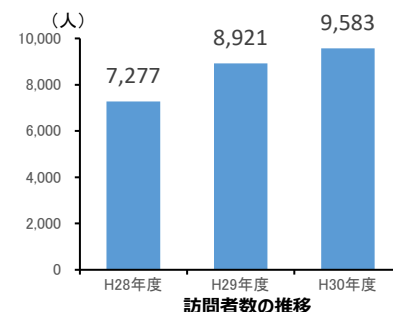
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 修学旅行のほか、小学生から大学生、一般客の体験学習としての農泊体験、一般団体や大学生の卒業論文作成のための研修等を受入れ。



教育旅行におけるビザづくり体験



今後の展開方向

- 農泊家庭の担い手が減少しているため、若い力が必要となっており、今後も引き続き地元の事業者等の協力を得ながら取組を展開していく予定。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



たちほ

高千穂ムラたび協議会【宮崎県高千穂町】

選定年: H28年
(プロデュース賞受賞)

概要

- 平成22年度に「あまざけ」などの発酵食品を中心とした6次産業化を開始し、正社員やアルバイトの雇用を創出。
- 棚田など山間地独特の美しい農村景観、神話史跡などのスピリチュアルスポットを活かした高千穂らしい農村観光開発を目的とするエコミュージアムの取組を展開。

選定年(H28年)前後の状況

選定時までの活動状況

- どぶろく醸造年間2,000ℓ、あまざけ(150ml)出荷本数30,000本/月(H28年8月実績)。
- 当集落でしか味わえない「食材、料理」を農家民宿と古民家食堂で提供。
- メディア連携やSNSでの情報発信効果により、年間3万人近い交流人口を創出。



エコミュージアム施設で食事の提供

選定直後の状況

- 選定された平成28年度以降の2年間で新聞に6回掲載。
- 平成28年度に情報誌「anan」に「あまざけ(ちほまろ)」の情報が掲載。



あまざけ「ちほまろ」

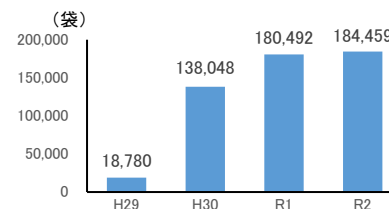
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 加工品の販売、農泊を引き続き実施。コロナ禍で農泊は一時休止しているが、高千穂町中心地にコロナ対応宿を新設。
- あまざけが中心であった加工品について、米粉を使用した焼き菓子の割合が拡大。
- 小売店に対する卸売りはコロナ禍の影響もあり減少しているが、EC(電子商取引)の進捗で前年比と同水準の売上を確保。



米粉を使用した焼き菓子



焼き菓子の売上推移

今後の展開方向

- 焼き菓子は、順調に受注しているが、製造のキャパシティより多い注文が入っており、今後は人員の増加や体制づくりを目指す。

ディスカバー農山漁村の宝 フォローアップ(優良事例の状況)



農業生産法人株式会社いえじま家族

(選定時) 有限会社タマレント企画 【沖縄県伊江村】

いえそん

選定年: H28年

概要

- 修学旅行を一般家庭で受け入れ、農業・漁業や島民の暮らしを体験する民泊事業を展開。
- 島で昔から栽培している小麦に着目し沖縄そばの生麺加工事業に取り組み、民泊の食事での提供のほか、地産料理を提供する飲食店を開業。地元小麦を使用した新たな特産品の開発・販売や、県内ビール会社と連携した商品開発に取り組む。

選定年(H28年)前後の状況

選定時までの活動状況

- 平成14年から県外の修学旅行生を民家で受け入れ、家業の手伝いや体験を通して島の暮らしを味わう民泊事業を実施。



民泊での家業体験

- 島に自生する在来小麦に着目し、小麦生産の価値を見直すため、平成24年に伊江島小麦生産事業組合を立ち上げ、小麦の生産から販売まで行う6次産業化の取組を展開。



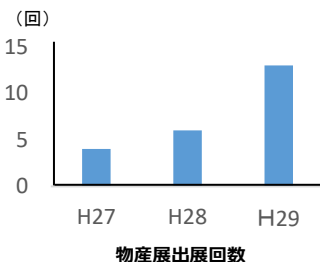
麦を使用した商品

選定直後の状況

- 選定年(H28年度)は5回、翌年度(H29年度)は6回の視察を受入れ。

- マルシェなどの物産展への出店が、6回(H28年度)から13回(H29年度)に増加。

- ECサイトでの商品購入回数は、73回(H28年度)から90回(H29年度)に増加。



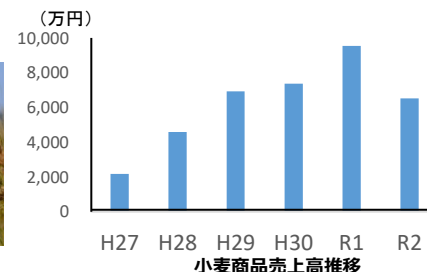
現在の状況及び今後の方向

現在の活動状況(5年後)

- 伊江島から始めた民泊事業について、宿泊者数は徐々に増加。沖縄本島6地域においても、地元の方と協力して地域の特色を活かした体験プログラムを実施。
- 小麦生産・加工に加え、県内企業・教育機関と連携してビール粕を堆肥として活用した伊江島産大麦から新たなビールを生み出す循環型の大麦栽培を実施。



伊江島産小麦



今後の展開方向

- 今後は、島内の加工業者と連携して新たな島産の土産品を開発し、コロナ禍で減少した島内の雇用創出を目指す。
- 安心・安全な栽培方法にこだわった生産・加工に引き続き取り組み、集落営農等、地域全体で活性化に取り組んでいく。